

平成21年6月15日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520178
 研究課題名（和文） 源氏物語絵巻の多角的研究

研究課題名（英文） The multiple research on Picture Scrolls of The Tale of Genji

研究代表者
 清水 婦久子（SHIMIZU FUKUKO）
 帝塚山大学・人文科学部・教授
 研究者番号：30226253

研究成果の概要：京都文化博物館「源氏物語千年紀展」と「読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界展」の企画委員として、多くの屏風絵・絵巻・画帖の画面および詞書を実見した結果、『絵巻』はじめ源氏絵が歌の場面をたびたび描いていること、歌に詠まれた言葉を意識的に描いていることを確認し得た。その成果は、右の図録の総論・各論・図版解説などで示した。国内外の研究者は、この展示で、歌の場面を多く描いた版本「絵入源氏物語」の挿絵にも注目し始めた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			0
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：源氏物語、源氏物語絵巻、源氏絵、詞書、和歌、絵画性、絵入源氏物語、版本

1. 研究開始当初の背景

(1) 『絵巻』の詞書について

国宝『源氏物語絵巻』（徳川、五島美術館蔵。以下『絵巻』と称する）の研究では、絵の画面ばかりがクローズアップされ、源氏物語の抒情性と重ねて説明される。国文学の研究でも詞書の内容を十分に考慮したものが少ない

ので、詞書の意図と『絵巻』の真価を明らかにしたい。

(2) 和歌との関わりについて

源氏物語の和歌を正確に読解する研究が少なく、和歌についての誤解も多い。そこで、和歌を尊重する時代に作られた『源氏物語絵巻』

と和歌との関わりを明らかにしたい。

2. 研究の目的

(1) 『絵巻』詞書の正しい理解

『絵巻』の詞書を丁寧に読み解いて『源氏物語』の原文との一致・相違を明らかにし、詞書と絵の画面とを比較対照して、『絵巻』本来の意図を確認する。また、詞書の書体・様式と絵の画面との関係を明らかにする。

(2) 『絵巻』と和歌について

『絵巻』の作られた時代に広く伝えられていた和歌や当時の宮廷社会との関わりを検討し、『絵巻』の編集方針を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 詞書の読解

詞書が源氏物語原文をどのように取舍選択したのかを読み解く。『絵巻』の制作された時代背景について探り、『絵巻』独自の作品世界を追究する。

(2) 詞書の書体・様式の調査

書体の変化や料紙の使い分けが『絵巻』の内容にどのような関係があるのかを考察する。

(3) 画面の様式の調査

本来は冊子形式だった可能性について考察する。『絵巻』の構図と同時代の絵巻や後世の源氏絵との関わりを考える。

(4) 画面の色彩の調査

デジタル撮影による科学的解析は動かし難いとしても、最終的に完成された復元模写と称する絵が『絵巻』原本の姿を正しく伝えているか、顔料の成分についても確認する。

(5) 木版本『源氏物語絵巻』の調査

昭和30年代に作られた木版本『絵巻』がどのような過程で模写され制作されたのか、当時の『絵巻』原本をどの程度忠実に再現しているのかを、木版本『絵巻』の原本と版木によって調査する。

4. 研究成果

(1) 『絵巻』の詞書と画面

徳川本・五島本『源氏物語絵巻』の詞書において、源氏物語原文がどのように取舍選択されているか、詞書の内容が絵巻の画面にどのように反映されているのかを考察した。

(2) 源氏絵と和歌との関係

京都文化博物館で開催された「源氏物語千年紀展」および「読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界」展の企画委員として、展示構成の企画と図録の編集・執筆を担当し、多くの屏風絵・絵巻・画帖の画面および詞書を実見し得た。その結果、『絵巻』をはじめ多く源氏絵の大半が、歌の場面をたびたび描いていること、歌に詠まれた言葉を意識的に描いていることを確認し得た。その成果は、「源氏物語千年紀展」図録の総論「源氏物語の千年」や五十四帖屏風の図版解説などで示した。

(3) 源氏物語の絵画性と和歌

お茶の水女子大学国際日本学シンポジウムの発表「源氏物語の絵画性」でも、多くの源氏絵の絵画性が物語の抒情性や歌の世界を表していることを論じ、徳川本・五島本『源氏物語絵巻』と和歌との密接な関わりを指摘した。その成果は「比較日本学教育研究センター年報」第5号に掲載された。これによって、『源氏物語絵巻』のみならず、源氏絵の研究に、

物語本文・詞書の読解、特に和歌についての研究が不可欠であることを明らかにした。

(4)国内外の研究者の反応

国内外の研究者は、歌の場面を積極的に描いた版本「絵入源氏物語」の挿絵に注目し始めた。これは、拙著『源氏物語版本の研究』の研究成果を踏まえ、「源氏物語千年紀展」と「読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界」展において、版本の挿絵が多くの源氏絵に影響を与えたこと、それが歌の場面と大いに関わっていることを周知させたことによる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 (計9件)

清水婦久子、源氏物語の絵画性、「比較日本学教育研究センター年報」(お茶の水大学) 査読無、5号、2009、91~98p

清水婦久子、斐文会特別講座「源氏物語の千年」,「百舌鳥国文」(大阪府立大学言語文化学会) 査読無、20号、2009、41~67p

清水婦久子、源氏物語の中の伊勢物語、『伊勢物語 虚構の成立』(竹林舎) 査読無、2008、474~494p

清水婦久子、昭和の源氏物語研究史を作った十人「九 清水好子」,『源氏物語と紫式部 研究の軌跡 研究史編』(角川学芸出版) 査読無、2009、146~160p

清水婦久子、模倣・転用の文化、『読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界』(京都文化博物館) 査読無、2008、48~49p

清水婦久子、近世における源氏物語、『読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界』(京都文化博物館) 査読無、2008、16~19p

清水婦久子、版本の本文と挿絵、『源氏物語千年紀展』図録(京都文化博物館) 査読無、2008、210p

清水婦久子、五十四帖屏風の中の源氏物語、『源氏物語千年紀展』図録(京都文化博物館) 査読無、2008、54p

清水婦久子、源氏物語の千年、『源氏物語千年紀展』図録(京都文化博物館) 査読無、2008、14~22p

〔学会発表〕(計3件)

清水婦久子、「絵入源氏物語」の挿絵と本文・和歌・注釈、中古文学会春季大会シンポジウム「源氏物語の絵と注釈」,2009年5月23日、国士館大学

清水婦久子、源氏物語の絵画性、お茶の水女子大学大学院国際日本学シンポジウム、2008年7月6日、お茶の水女子大学

清水婦久子、源氏物語の和歌と引歌(「源氏物語千年紀」特集) 和歌文学会関西支部、2008年7月5日、京都産業大学

〔図書〕 (計2件)

清水婦久子、新典社、『光源氏と夕顔 身分違いの恋』,2008、158p

清水婦久子、和泉書院、『源氏物語の風景と和歌 増補版』,2008、566p

6 . 研究組織

(1)研究代表者

清水 婦久子 (SHIMIZU FUKUKO)

帝塚山大学・人文科学部・教授

研究者番号：3 0 2 2 6 2 5 3

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし